

年不詳十月三日付け仙石忠政書状（仙石家17―6号）

返々、せつかく
なくさみ候べく候、
貴殿きにちかい申候
もの候はば、上田へ
申し候べく候
とかくきをなく
さめ、あそひ候べく候、
あいたく候、く、
く、かしく、

（深谷）

ふかやまで昨日
つき申候間、これ
より人を遣候、上田

（栗）

よりくり来候間、
貴殿へまいらせ候、しやう
くわん候べく候、
おおくは無用候、
昨日は雨ふり
とせんに可有と
これのみあんし候、
貴殿事まで
こころもとなく
よるもねられ
す、うかくと
いたし候、すい
ふんひまあけ、
かへり候てかたり
可申候、

（豆回）

一、
まめまわし
そくさいに候や

なくきみと存
参候、上田へつき
次第、いろくの
物もたせ、つかはし
候べく候、
一、何にても用の事
かきつけ可給候、
とのへ可参候、
一、おば申され候事
よくきき
候べく候、何事も
はやくあい、かたり
申度候、く、く、
くわしく上田より
可申候、恐々謹言

十月三日 忠政（花押）

（政勝）
万千代殿
返事